
三題噺

桜花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三題噺

【コード】

N08060

【作者名】

桜花

【あらすじ】

読書が大好きな主人公の僕と、お菓子作りが大好きな妹のある日。

* 青い * 夕陽 * 今川焼き

* 青い

* 夕陽

* 今川焼き

放課後、忘れ物を取りに戻った教室は、窓から優しく夕陽が射し込み、時折風がカーテンを揺らす。誰も居ない教室はいつもより広く感じられた。それでもとても心地いい空間だと思った。

僕はロッカーから教科書を取り、それから夕陽に誘われるかのように窓側の席に座った。そして先ほど図書室で借りてきた青いハードカバーの本を開いた。

夢中になってページをめくっていく。気がつけば外は夕陽が沈んで、暗くなり始めていた。僕は鞆の中に本をしまつて帰宅した。

「ただいま」

「おかえりお兄ちゃん」

家に着くと、顔や手が粉まみれになっている妹が出迎えてくれた。

「あや、今日は何を作ってくれたの？」

靴を脱ぎ、そのままりビングの方へ向かう。すごく甘い香りがする。

「今日はね！あやがどうしても食べたかった”今川焼き”をつくったんだよ」

と言うと、かわいくラッピングされた今川焼きをさし出した。誰かにあげるつもりだったのだろうか？

「中身は小豆とクリームの２種類だよ！今渡した青いラッピングのが小豆で、ピンクのラッピングの方はクリームなんだあ！」

「ありがとう、あや」

僕は丁寧にラッピングされた今川焼きを一口食べた。まだ焼きたてだった今川焼きはとても温かくて、口の中に広がる小豆の甘さが鼻孔をくすぐる。

「おいしい。１人でつくったの？すごいね」

「うんっ！」

僕は残りの分を食べる。その様子をあやは、じっと見つめた。

「おいしかったよ。また作ってね」

「次はもっとおいしいの作るね！」

「楽しみだな」

夕飯できたら呼びに行くねっ！とあやは言い、僕は自分の部屋に向かった。鞆から借りてきた本を取り出して、ベッドの上で続きを読み始めた。この話の続きどうなるのだろうか？

僕はまた本に夢中になるのだった…。

f i n*。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0806o/>

三題噺

2011年10月7日22時05分発行